

早稲田のいぶき



◎黒川会長による開会挨拶の様子

地域活動は、地域に住む方々の参加と協力があってこそ活性化します。榎地区でも、地区協議会、町会や商店街などさまざまな地域活動が行われていますが、「運営委員が十分に集まらない」などの悩みを抱えていて、必ずしも順風満帆というわけではありません。

そこで今回は、試みに町会の活動を取り上げ、「どうしたら町会活動への参加者を増やせるか」をテーマに、地区協議会と榎地区町会連合会の共催で「榎地区まちづくり講座 みんなでパワーアップ！えのき」を開催いたしました。各町会から、町会長をはじめとする役員延べ八十三名のご参加をいただき、4日間の日程で実施いたしました。ワークショップ

講座概要

開催日時

① 第1回ワークショップ

(主に問題点・課題の抽出)

Aグループ

平成二十二年九月二十七日(月)

午後七時～九時

Bグループ

平成二十二年九月二十八日(火)

午後七時～九時

② 第2回ワークショップ

(主に解決策・具体案の立案)

Aグループ

平成二十二年十月四日(月)

午後七時～九時

Bグループ

平成二十二年十月五日(火)

午後七時～九時

講師

NPO法人「まちぽっと」事務局長
辻 利夫氏

形式で行われた本講座では、さまざまな視点から意見が出てとても有意義な内容となりました。本誌2～3ページの記事は講座の中での発言・アイデアをまとめたものです。

これらのアイデアは、各町会で検討・実践していただき、参考になったこと、取組んでみたこと、取組みによって苦労したことなどを、今年三月に開催する報告会で発表していただく予定です。

本講座の開催にあたっては、榎地区町会連合会の全面協力のもと、成功裡に終えることができました。感謝申し上げます。

企画においては、特に討議形式の決定と、講師の選定に腐心いたしました。また運営のほか、当日は地区協議会委員も各検討グループに付添い、書記などの補助作業を行いました。

今回の成果を、榎地域の活性化につなげていただければ幸いです。

(榎地区協議会第一分科会)

榎地区町会連合会との共催企画

榎地区まちづくり講座

「みんなでパワーアップ！えのき」

特集号

4. 役員、実行委員の負担を軽減しよう！

- 役員の労力に対して、手当を設けることできちんと報いるようにする
- 当番制や持ち回り制を導入し、負担のかたよりをなくす
- 複数人で担当し、負担を分散する
- 学生アルバイトを活用する
- 行政に頼めることは頼み、最大限活用する

5. 役員、実行委員を養成しよう！

- 青年部から若手を積極的に抜擢し、養成する
- 女性のネットワークを活用し、候補者を募る

6. 改善してみよう！

- 収支内容など、積極的に公開しクリーンな活動実態をアピールする
- 新しく加入した人が溶け込みやすいよう、オープンな雰囲気づくりを心がける
- 「災害時の備品の置き場がない」などの重要な問題を放置しない(できることから着手してみる)



～このほかにも多種多様な意見があり、熱い議論が交わされました。～

地域住民の町会活動への参加を促すには



◎意見が出揃いました。さて…



◎辻講師による講評



◎考え中…



◎発表にも熱が入ります

1. 広報、コミュニケーションを充実させよう！

◆ 広報

- 広報紙を発行して町会の活動をお知らせする
- メールマガジンを(携帯に)発行して町会の活動をお知らせする
- 町会メンバーの顔写真、趣味等を掲載する(チラシでも何でも良い)～文章よりビジュアルで親しみやすさを演出～
- マンションの掲示板に町会の行事予定や連絡事項を貼らせてもらう
- 行事の際に次の行事のチラシを配る

◆ コミュニケーション

- 日頃の地域の方への地道な声かけ、細やかな声かけが大事
- マンション建設計画時点で町会加入協定を結ぶ
- 新しく加入した人が、なるべく多くの町内の方々と接することができるよう機会をつくり、溶け込みやすくする
- 行事のあとの慰労会に一般の参加者も招く
- あいさつ運動を行う
- 災害時にスムーズに協力し合えるような良好な関係、親睦を深めることが大事

2. 「町会に加入しよう」と思ってもらうには？

- 町会活動への協力者に御礼・日当を渡す
- 各種「お祝い」制度を設ける(入学、敬老、その他)
- 気軽に参加できる趣味の集まりやお楽しみ会を多く企画し、町内と町会に親しみやすくする

3. イベントにも工夫を！

- フリーマーケット等の楽しい買い物イベントを実施する。
- 餅つき大会に餅券
- 運動会を複数町会で合同開催し、賞品を豪華に
- 子どもが楽しめ、親が安心して参加させられるよう、健全性と防犯体制づくりを！
- 学校に協力してもらう(祭り告知、行事チラシ配布等)
- 祭礼、初詣等の伝統行事の意義と大切さ、楽しさを子ども達に教える機会を設ける
- イベントの準備委員に子どもを参加させ、意見を取り入れる
- スポーツクラブの指導者と交流をもち、子どもたちが無理なくイベントに参加できるよう、情報交換する
- マンネリ化しないよう、常に新しい企画を検討する
- 他地域のイベントを視察して参考にする
- 行事を組み合わせる(例:防災訓練+どじょうつかみ)
- 防災訓練の際におみやげを用意する

● 榎地区協議会は住民の皆様の意見を集約し、また行政の方針を検討し、地域の考えを区政に反映していく窓口として、がんばっていきます。

お問い合わせ・応募は、榎地区協議会事務局(榎町特別出張所内)まで
 TEL 03-3202-2461 FAX 03-3202-2476
 〒162-0042 新宿区早稲田町85番地 榎町特別出張所内 榎地区協議会事務局
<http://www.city.shinjuku.lg.jp/soshiki/261500enoki.html>

お待ちして
公募委員
 おります

第三分科会

環境美化分科会

□エコツアー参加報告

平成二十二年十月十四日(木)に第三分科会のメンバーで新宿区立環境学習センター主催のエコツアーに参加してきました。新宿駅西口からバスに乗り込み、足立区でびん・缶・ペットボトルなどのリサイクル事業を行っている(株)トベ商事に見学に行きました。まず戸部社長より事業内容について説明していただき、続いてリサイクル工場を見学いたしました。工場には、私たちが普段生活する中で何気なく使用しているびんや缶等の容器が山のように積み重ねられていて、臭気が立ち込めていました。作業をしている社員の方の話では、時にはスプレー缶の中に残っているガスに引火し、火災が起ることもあるそうです。過酷で危険な作業だなと感じました。

また、これらの処理には大変な費用がかかる上、この成果品はかかった費用の十分の一ほどの値段でしか売れないそうです。対して酒瓶や醤油の瓶などの多くは「リターナブルびん」といい、きれいに洗浄し消毒処理をすることで、安価に再利用することができ、エコな容器であることも初めて知りました。

普段から、びん・缶等の容器を回収



◎ペットボトルの山



◎工場内を見学中

に出すときは中を洗浄しておくことや、過剰な包装を避けるなど、リサイクルの手助けになるよう心がけることの大切さを改めて感じました。大変勉強になったツアーでした。

第四分科会

地域ふれあい分科会

○ふれあいデー実施報告

毎月第一日曜日午後1時より早大通りにて、世代間交流を目的に実施
九月五日「ただじゅんさんとあそぼう！」
獅子舞でおなじみのただじゅんさん

に、高く飛び紙飛行機・ストロー・笛・風車等のクラフトや、楽しいかたつむり・グーチヨキパー等を動かす遊びを教えてください、最後にお神輿を担いで皆でワッショイ!ワッショイ!
十月三日「昔遊び・クラフト・輪投げ」
十一月七日「輪投げ大会・長い絵を描こう」

高齢者クラブの皆さんで輪投げ大会をしました。皆さんお元気でもとも上手です。若者諸君、今度チャレンジして下さい。早大通りの素敵な絵も描きました。
十二月五日「クリスマスツリーを作ろう」
小さな三角帽子はツリーにもなります。モールをつけたり、シールを貼ったり、世界に一つのツリーをかぶって大満足。カードやリースも作りました。

○榎ふれあいクッキング実施報告

年四回食育・世代間交流を目的に実施
十二月四日(土)午前十時から三時
お正月料理「手作りおせち」
榎町地域センター調理室にて実施
参加者二十四名

今年でお正月料理も三回目となりました。過去二回は好評につき、「新しいお



せち」を同じメニューで行いましたが、今回は伊達巻・錦糸卵・たたきごぼう・なます・鶏肉ロール巻他「伝統的なおせち」の作り方、いわれ等をご紹介します。きれいで手軽に出来、皆さん大満足。老若男女、幅広い年齢層の方々にご参加頂き、世代を超えた交流も出来ました。「日本のおせち」を若い方が受け継いで下さる事はとても嬉しく、実施の意義を感じました。手作りにハートがこぼれは嬉しいです。
(ふれあい分科会ではご協力をして頂けるサポーターの方(個人・団体)を募集しております。詳しいことは事務局まで)